

自己評価票

- 自己評価は全部で101項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	23
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	101

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム おおやちの家
(ユニット名)	竹ユニット
所在地 (県・市町村名)	新潟市江南区うぐいす2-7-5
記入者名 (管理者)	岡田 江理子
記入日	平成 21 年 3 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしさ」「主体性の尊重」を根幹とした独自の理念を作り上げている。	○	引き続き、理念を軸にぶれることがないよう、時に振りかえり、モットーにしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目の届く所に理念は掲示している。又社内研修にて理念の説明うけている。	○	ホームの理念は共有しているが、なぜ理念が大切なのか掘り下げて学ぶ機会をもうけていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には、入居申込み時、入居日にパンフレット、重要事項説明書とともに、十分な説明をしている。地域には、運営推進会議、ボランティアの方々の来訪時など、地域の方とお会いする際はその都度話の中で組み込みながら説明させていただいてる。また、町内会の会合へは、積極的に参加しているところである。	○	町内会、自治会などへの積極的参加をし、引き続き、家族へは入居前、入居後も理念を軸にした説明、報告をしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に行った時など、積極的に挨拶はしている。又、一部の地域の方々には行事に参加してもらっている。しかし、気軽に立ち寄ってもらえる付き合いまでには至ってない。	○	用事もなくホーム内に入ってもらえるには近隣の方々も抵抗があると思う。ホーム周辺にお花をうえたりして関心をもってもらえ、まずはホーム敷地内にはいりやすい環境を作っていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々に忘年会、納涼会等のホームの行事に参加していただき、ホーム側も季節に応じた地域主催の行事に参加しているが、交流がなされているかは疑問である。	○	地域と密着し、ホームへの理解を深めていただき、事業所全体、利用者様が社会、地域とつながっていけるように検討をはかっていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等の暮らしに役立つような貢献はしていない。ただ、グループホームを知って頂くことで、認知症へ理解を深めてもらえるような取り組みを徐々に進めている。	○	地域とのつながりを事業所、職員、利用者様とともに持ち、ホームを知っていただき、介護に、暮らしに役立つ情報を交換していきたい。また、事業所としての活動計画を作成していく。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義は理解しているも具体的な改善に至っていない項目もある。	○	必要性を理解したうえで、具体的な改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議では、ホームにおける行事や取り組みの説明、今後の活動予定等報告し、多くの貴重な意見をいただいている。そこでの意見はサービス向上にいかし、振り返る意味でも貴重な会議となっている。話し合った内容は、職員へ書式にて報告している。	○	地域の声を聞くためにも、貴重な意見を大切に、一つ一つの意見に対し、対応策等を検討し、運営推進会議の意義を理解し、職員側へもつたえていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、市町村等の活動内容の情報を得ながら積極的に状況に応じて取り組む姿勢である。	○	地域、市町村等とのつながりもてるように行き来することにより、指導をいただきながら情報も得て、サービスの向上に役立てていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については管理者やホーム長に任せているが、学ぶ機会をもっていない。	○	制度についてしっかりと理解できるように、学ぶ機会を作っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修やミーティングを通して学んでおり、チーム全体で虐待防止に努めている。	○	コミュニケーション能力をあげ、言葉の虐待が起こらないよう定期的に話し合い、自分を振り返っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解、納得していただいた方がホーム入所の条件にもあげられている事もあり、契約等する際は、ホーム作成の「重要事項説明書」をもとに、十分な時間を使い説明をしている。不安な点は傾聴し、疑問な点も説明をし、また、いつでもたずねていただけるよう伝えている。	○	今後もホームの理念、重要事項等しっかり理解していただけるよう、十分な説明をしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満は言えるが不満を反映することができてない。また、意見箱の活用がされてない。	○	意見箱が活用できるように環境を整え、また、入居者様の意見、不満を聞くだけでなく反映させていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に一度のご家族へ広報誌、手紙を出したり、面会時、又、急を要するものはその都度電話にて連絡している。	○	今後も広報誌の発行と近況報告の手紙をだし、報告していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「なにかありましたらいつでも」とは伝えるが、ゆっくりと話す機会などはもたれていない。直接意見があった際は苦情、要望、相談シートに記入し、話し合い、改善に努めていく。	○	定期的に家族会を設けたり、意見箱の活用やアンケートの実施をしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自由に意見が言える雰囲気作りと意見箱を設置しているが、職員一人一人がどう感じているかは疑問である。意見箱も定期的に確認してはいない。	○	意見箱の活用、定期的な意見箱の確認。様々な意見がホームにとって反映されるよう、職員とコミュニケーションを図り、そのような時間も作っていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて休憩時間、勤務変更など柔軟に対応できている。しかし、職員数に余裕がない為、事務職側の協力も得る場合もある。柔軟な対応ができるよう、利用者側の健康は勿論だが、職員の健康管理にも常に注意を呼びかけている。	○	ユニット間の連携をもち、引き続き対応可能な状態を維持していく。職員体制の見直しを随時図っていく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職に関して利用者様に影響が及ばないよう、ことばかけ等にはホーム全体統一したものとなるように注意しているが、事務所側との情報の共有ができていないため、利用者様を混乱させてしまうときがある。	○	ホーム全体の情報の共有を徹底する。異動等は利用者様にダメージがいかないよう、十分な検討、対策をしてから実施していく。
18-2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	マニュアルは開設当時からのものであり、見直しが行われていない。状況に応じて対応策を検討しているが、十分にたっているとはいえない。介護マニュアルは一人一人に入社と同時に渡している。	○	利用者の状況が変わっていく中での、新しい介護技術、支援法等の知識の共有、サービスの向上、そして柔軟に対応していくためにも、マニュアルの見直しを適宜はかかっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	外部研修等で学んだ事を、他職員と共有できるよう、復命書にて回覧しているが、より周知してもらう為にも、内部研修等で発表する機会を設けるなど、ホーム全体で学んでいきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	ネットワークをひろげ、相互活動の協働により、サービスの向上に努めていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	ストレスをためないよう、心と体の休養、定時勤務の励行をよびかけ、職員の訴えを聞けるような時間と体制を確保していく。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	○	職員の成長過程に応じて働き甲斐のある職場をつくり、評価をあらわしていけるように、個々の職員との関わりを増やしていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	○	時間をかけ、ご本人様とのコミュニケーションをはかっていき、ご本人様の不安な事、求めている事を傾聴し、受け止めていきたい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	○	十分な時間をかけ、ご本人様、ご家族の不安、希望等を傾聴し、受け止める姿勢を第一に努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現ケアマネを含めて、ご本人様、ご家族とホームへの入居が必要な時期なのかどうか、他のサービスが利用できないかどうか等を念頭におきながら対応している。	○	ご本人様の主体性を大切にし、グループホームでの生活が必要な状況なのかを念頭に、幅広い情報をお伝えできるように努めていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームを充分見学していただき、現入居者様と会話しながらホームの雰囲気を感じてできるだけ安心していただき、充分な説明の上、納得してもらってから入居していただけるようにしていきたいが、ご家族主体ですすめられることが多い。入居後はご本人様の不安も多いため、ご家族様にはできるだけ足を運んでもらえるよう依頼している。	○	ご本人様主体になって充分納得してからホームでのサービスを利用できるように、充分な時間をかけ、余裕をもってサービス利用まで至りたい。また、ホームでの生活を一日体験していただけるような機会を提供し、ご本人様の不安を軽減できるように図っていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の仕方や掃除の仕方等教えてもらう事は多いが、一緒に喜怒哀楽を共にするまで至っていない。又、職員が手を出すことが多く、職員主体となってしまっている。	○	利用者様を把握し、その力をだしきれるようにしていきたい。その為にも、利用者が有用感をもって活躍できる場を増やしていく必要がある。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加していただいているが、喜怒哀楽を共にしていない。また、どこまでふみこんでいいのかわからない。	○	家族の思いや不安を聞く機会を設けていき、また、来訪時にご本人様のホームでの生活の中でみつけた「強み」などプラスの面を報告することにより、話し易い雰囲気を作っていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご入居者様の思いなどを職員が代弁し、良い関係が築けるようにしている。	○	ご自身の家族だからこそ言えない悩みや不安感などを把握し、そのことをご家族にお伝えし、良好な関係が続くように努めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、利用者様の自宅や地域のお祭などに行けるようにしている。	○	今後も馴染みの場所や家に定期的にいけるよう支援していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	集団で行なうレクリエーションの時間を作り、楽しい時間を共有してもらっている。また、体の利く方が自由に体が利かない方のお世話をしてくださり、支えあっている。	○	一人である事が好きな方もいる為、一人一人の性格を把握し、思いを大事にしながらも、孤立しないように支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今まで事例がない。	○	そのようなことがあれば、いつでも相談できるよう、退所時等にご家族に話をしておく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えてくる方についての思いは理解しているが、そうでない方に関しては会話の中から思いや希望の把握に努めているが、直接確認は出来てない。	○	希望が言える人に関しては、意向や希望を確認していき、そうでない人に関しては生活歴や日々の生活の中から把握に努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族から情報を集め把握に努めている。	○	ご家族が来訪時は、現状報告をすることでコミュニケーションをはかり、話の中から、また新たな情報がえられるように図っていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のカンファレンス等において把握に努めているが、有する力を最大限に出し切れていない。	○	職員が手を出しすぎず、ご本人様の有する力を出せるよう支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本様との会話の中や訴えから課題を探してはいるが直接本人にきけていない。	○	ご本人様の希望を第一とし、その他は沢山の人の意見やアイデアを反映した介護計画を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者様の状態に変化があった際は、毎日のカンファレンスにてその支援の見直しをしているが新たに作成はしていない。	○	状態の変化にあわせて、介護計画を見直し、ご家族に確認していただき、状態の変化についても理解を得ていけるようにしていく。また、作成しなおすことで、方向性を利用者、ご家族含めて見直し、共有していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容-実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やカンファレンスノート、連絡ノートを活用しながら情報を共有している。また、状態に変化があった際は、その都度カンファレンスを行い、支援の見直しをしている。	○	情報の共有に努めているが、記入もれもみられるため、もれがないように徹底していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症の進行と共に介護度もあがり、以前より柔軟な支援ができていない。	○	業務見直しをしていき、柔軟な対応ができるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	時折、ボランティアの方(踊りや唄)は来て下さるが、地域資源との協働は殆どない。	○	認知症の方をもっと知って頂く為に。触れ合う時間を設けたり、消防や警察にこちらから出向き、ホームのことを理解してもらう必要がある。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要時に他ケアマネジャーやサービス事業者と連携し、利用者様の柔軟な対応ができるよう協働しているが、他のサービスを利用する為の支援はしていない。	○	他ケアマネジャー、サービス事業者との連携を深め、柔軟な対応ができるよう協働していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	研修会に参加したり、成年後見人制度に関しては、指導をいただき、尚且つ協働し利用者の相談に応じたが、利用には至っていない。	○	地域密着型ケアマネジメントをすすめていく為にも、地域包括支援センターに足を運ぶ等して、指導いただく姿勢をもって連携をはかっていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも相談にのっていただけるホームドクターがおり、必要性、または希望があれば本人、ご家族に直接会って十分な説明をしていただいている。	○	ホームドクターはご家族との話し合いに積極的に協力していただき、信用も得ている。これからも、利用者様、ご家族に納得していただけるよう、必要時はドクターの協力を得ていきたい。また、ドクターのご指導をこれからもいただき、ホームの向上を図っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	週に一度のドクター往診がある。また、緊急時(夜間帯も含む)にはすぐ対応できる体制が整っている。	○	利用者、職員の相談にも快く応じてくださり、指導をいただいている。これからも、精神的、身体的の相談、治療、夜間の緊急時等、対応していただけるようお願いしていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤だが看護師がいる為、相談することができる。又、24時間電話連絡可能である。	○	情報交換がスムーズでないことがある為、情報の漏れや間違いがないようにしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	担当者が変わり、柔軟な対応ができていない。	○	利用者様、ご家族が迷うことなく様々なケースの話し合いがすすめられるように、同業者との連携を確保して、一番いい方向性が導き出せるように勉強を重ねていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ドクターからご家族へのムンテラを行なっていたり、ターミナルがおこなえるかどうか全体で話し合い、方針を共有している。	○	話し合いの時期を見逃さないように、先のおこりうる可能性を常時観察していく。利用者様、ご家族の気持ちを大切に、ご家族にはご負担にならない位に繰り返し、話し合いと報告を確実にしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームでの「できる、できない」を見極めホームドクターとともにチームとして支援に取り組んでいる。	○	事業所として「どこまでできるのか」ということを、ホームドクター、ホーム側よりこれからもしっかり説明していく。その都度、ご家族には納得していただき、報告を確実にしていく。変化に備えた準備、ケアプランを作成し、利用者、ご家族、職員が同じ方向性を歩んでいけるようにしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族、他関係者等と相談を充分に行い利用者様に一番適切と思われる選択をしダメージを防ぐことに努めているが、利用者様、ご家族が納得されたかは疑問である。	○	利用者、ご家族が不安に思うことないように、関係者間で情報交換をし、スムーズで且つ柔軟な対応がとれるようにしていきたい。繰り返し話し合いをすることで、双方が納得できるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	頭で理解していても言葉がけや対応が適切でないことがある。又、記録に関してはご家族に提示した際など専門用語等あり解りにくい事もある。	○ コミュニケーション技術を向上させていき、不適切な対応をしないようチーム全体で今後も話し合いをもっていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「皆と一緒にいい・・・」と言うように自己決定がしづらい環境にある気がする。また、希望が現実になっている人はほんの一部である。	○ 利用者様一人一人がしたいこと、思っている事を言葉や行動に出せるような環境作りをしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合の中で、可能な時のみ利用者様の希望をとりいれているのか状況である。	○ まずは、利用者様方がどのように過ごしたいのかをしり、その希望にあった暮らしができるよう、業務改善を図り、固定観念をとりのぞいていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	地域のカットサロンや出張カットまたはご家族に協力してもらい、利用者様の望む店にいけるようにしている。	○ できる限り、利用者様主体になるよう支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から片付けまでできる限り利用者様には参加していただいているが、職員主体になっている事が多い。	○ 女性の利用者様が多く、一人一人片付け方、調理の仕方があるため、そこでトラブルがおきないように配慮をしていく必要もある。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買物の際、利用者様がおやつを買う際は好きな物を購入している。ホームで提供する物は、嫌いな物を出さないようにしているが、一人一人に合わせてはいない。	○ 今後も手作りお菓子を利用者様と一緒に作ったり、カロリー等も考えながら、できる限り利用者様の望む物を提供できるように考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リハビリパンツやパット使用時はよくチームで話し合い、ご家族にも確認をとり、安易に使用していない。又、排泄チェック表を用いて排泄パターンの把握に努めている。	○	排泄チェック表の漏れがないよう徹底していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能だが、職員の方で時間帯等は決めている。しかし、入浴中はご本人様のペースで入ってもらっている。また、清潔保持の為に利用者様の気持ちに合わない時もある。	○	清潔保持も頭にいれながら、できる限り利用者様の希望やタイミングにあうよう支援していきたい。又、入浴が不快にならないよう、これからも浴室の温度管理等にも配慮していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室の温度調節をしたり、日中できるだけ覚醒していただき、夜間眠れるよう支援している。また、必要な方には眠前薬を使用している。	○	居室にいらっしゃる時間が長い方に関しては、日中は覚醒していただくためにも、本人の同意を得てなるべく明るい居室にさせていただく。気持ちよく休んでいただくためにも、日中の活動量に関して、個別に把握していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割をもってもらっても、充分ではなく不満に思われてる時もある。外出、外食など気分転換はかるが、足が不自由な方への支援が、そうでない方との平等性にかけている。毎日のカンファレンスの中で、状況に応じた対応、長期的対応を念頭において話し合っている。	○	一人一人の力を活かせるよう、生活歴、会話の中、身体状況を考慮して、出来る能力を使う機会を提供していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ大切さは理解しているが、金銭トラブルが多かったため、基本的には自己管理はしていない。しかし、いつでも好きなものが購入できるよう、立て替え購入を取り入れている。また、ホームの買物時の支払いなど行なってもらっている。	○	金銭が持てない事への不満を訴える利用者様に対して、納得していただけるよう入居時に同意をきちんと得ていきたい。なかなか納得しがたい利用者様に対しては、あらかじめご家族の協力を得ることへの同意をいただく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内で過ごす事が好きな人もいるが、外出が好きな方へは散歩や買物等に、こちらの都合がいい時間、曜日にお誘いしている為、そのときの希望にそっているとはいえない。	○	日課以外にも、「いきたい」と声を出された時に行けるよう、ユニットや事務との連携を図っていき、そのときそのときを大事にしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出支援は行っているが、一人一人が行ってみたい所へは殆ど行けてない。また、どこに行きたいのか把握できていない方もいる。	○	まず、一人一人がどこに行きたいのか再度確認、把握し、利用者様の希望するところに行けるよう、ご家族とも協力しながら計画を立てていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話は使用できるようにしている。また、遠慮しないように時折こちらからも声かけている。	○	引き続き、ご家族、ご友人との交流がたやすくとれるようにしていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時にはお茶を出したり、利用者様の近況報告等をし、コミュニケーションを図る事で、信頼関係をつくり、来訪しやすい雰囲気をつくっている。	○	ユニットに一步はいられた時、ひらかれた環境、自由な空間、明るい雰囲気を感じていただけるようにする。居室を有効活用していただく。職員自らコミュニケーションを図り、信頼関係を作っていく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるも、「待ってください」等言葉かけによる拘束を行ってしまうことがある。	○	今後も拘束について学ぶ機会をもち理解を深めていく。特に言葉かけに関しては注意を払っていききたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はしていないため、いつでも外にでられるようにはなっている。	○	施錠をしていない為ご入居様の所在確認の徹底をしていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	状況に応じて遠視見守りを行なうなどしているが、見守りや付き添い自体を自由がきかないと感じていることもある。また、所在の把握には努めているが、目の届かない事もある。	○	ホームの生活が窮屈と感じないよう所在確認や見守りを行なっていききたい。又、居室に入る際は必ずノックをし、相手の返答があってから入室するように徹底していききたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の能力に応じて危険を防ぐ取り組みを行なっている。	○	特に、個々の危険物に関する持ち物の把握に努めていききたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書を取りいれてカンファレンスにかけ対応策を考えている。又、二日に一度集計を行い、事故の再発に努めている。しかし、その反面对策の徹底が出来てない事で同じヒヤリハットがでてしまうことがある。	○	改善策や対応策の実施を徹底し、報告書が今以上に意味のある物にしていききたい。また、リスクだけをとりぞき、生活の幅が狭くならないようにリスクマネジメントをしっかりしていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故に備えたマニュアルは作成してあるが、見直し、訓練を定期的には行っていない。お餅等での喉のつまり等にかんして、又、看取り対応に関して、看護師より指導をうけた。	○	定期的マニュアルの見直しと、各自自主的に見直すようによびかけていく。定期的に急変、事故発生にそなえた訓練、状況に合わせた訓練を職員全体で実施し、両ユニット連携してはかれるようにしていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルと年に二回の防災訓練をしているが、地域に呼びかけたものにはなっていない。協力体制は整っていない。	○	地域の消防、警察署、町内会、自治体等、協力がえられるよう、よびかけていく。訓練にも参加を集めていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりうるリスクに関してはその都度ご家族に説明している。	○	主体性を大切にするにはリスクが必ずあり、そのことをご家族に理解して頂き生活の幅が狭くならないようにしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタル測定や体調不良等発見した時は、記録、申し送りをし、情報の共有につとめ、必要時は医師、看護師に連絡し指示をもらっている。	○	日々の状態把握に努め、小さな変化があった際などは看護師や、往診時に医師に報告し、速やかに対応できるようにしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬に関し理解はできていないこともあるが、わからない際は調べられるようになっている。又、薬に変更があった際は情報を流し、注意深く観察するよう努めている。	○	特に副作用に関しては、看護師より指導をもらい、注意深く観察していく。内服後の変化についても記録を残し、情報が共有できていけるように、「送り」「記録」を大切にしていける。変化については確実にホームドクター、看護師に伝えていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたメニューや水分摂取に努めている。又、身体を動かす機会を設けている。それでも、便秘の際は下剤の内服をしてもらっている。	○	季節のお野菜を取り入れたメニューを心がけ、便秘がちな方に関しては特に水分の摂取量の把握もしていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	今までの口腔ケアの習慣があり、毎食後行なわない方もいる。その方たちに関しては就寝前は口腔ケア、義歯をポリデントにつけてもらう等の声かけをしている。	○	ご本人様の習慣を大切にしながらも、口腔内の清潔が保持できるよう働きかけていきたい。また、必要であれば、定期的な歯科受診の検討もしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事前に献立を作るため、栄養バランスは考慮し、偏りがある場合は、手直しを行いながら栄養確保している。水分は小まめにお茶などお出しし、すすまないかたにかんしては、くず湯、ゼリー、フルーツ等で対応している。	○	減塩ながらも美味しくなるよう工夫していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが整備されている為、それに基ずき行っている。うがい、手洗い、換気は常時励行している。又、年に二回バルサンの計画をたて実施している。開設以来、インフルエンザ、ノロウイルス等感染された方はいない。	○	新しい情報は全体で共有し、これからも予防に徹する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理道具は毎日消毒を行い、台拭き等は乾燥機にかけ熱消毒を行なっている。食材に関しては、できる限り国産の物を使用し、使用する分だけの購入をしている。	○	今後も定期的に消毒を行い、食の安全につとめていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	特に工夫していない。	○	花だんや畑を充実させ、近隣も楽しめるようにしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あまり季節感を取り入れてないが、テレビの音量や状況に応じ光の調節をしている。しかし、トイレに暖房がないため、冬場はかなり寒い。	○	季節感ができるように工夫したい。また、トイレの空調も検討していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにカーテンをとりつけ、空間を造り工夫したが、まだ慣れないためかあまり活用できていない。	○	空間を活用できるよう働きかけていき、今後も暮らしやすい環境作りを検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り使い慣れた物を持参してもらうよう、家人に説明はしているが、持参した物が本人の希望にそったものかは不明である。	○	ご本人の状態に応じながら居室作りをしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日2回窓を開け換気をしている。また、温度調節は小まめに行なっている。	○	今後も空気の入れ替えをし、換気、気温、湿度に留意していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアにテーブルや椅子を設置することで休息をとれたりそれにつかまりながら移動できる。	○	今後も環境作りをしていき、安全且つ自立した生活がおくれるようにしていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には名前を、トイレも大きく貼り紙し、ご本人、他利用者にもわかるようにしているが、混乱や失敗を防ぎきれていない。	○	平面的で安全ではあるが、単調な設計であるため利用者にとってはわかりにくい部分もあると思われる。混乱を防ぐ対応策を状況にあわせて検討していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの周りは足場が悪く危険が多い。外回りは季節に応じて花をうえたり、野菜作りをしているが、楽しめるものになっているかは疑問である。	○	ホームの敷地の環境整備をし、季節ごとの花等、緑を多くとりいれていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。) 楽しみのある生活がもて、その時やりたい事、したい事の声を大切にする。利用者様は、「おおやちの家」の「支援者」でなく、「生活者」である。時にスタッフ一人一人が自分の支援をふりかえり、チームで共有し、反映していく・・・そんな気持ちで支援しています。